

家政行動に及ぼす個人的価値の考察(その3)若年層、高年層の価値意識
 愛知大短大 ○高桑穂子 金城学院大短大 生川浩子 椋山女学園大家政
 山口久子 金城学院大 今井光映

目的 家政行動は、各家族のファミリーサイクルや個々の家庭のライフスタイルによって変化することは予測されるが、本報告では、調査対象の幼稚園児の母親—若年層主婦と、女子大生の母親—高年層主婦の家政行動に及ぼす価値意識を明確にすることを目的とした。更に価値意識の構造を、ホンネ意識とタテマエ意識の関係としても考察した。

方法 オ1報と同様の調査方法により調査した結果を生活領域別に、若年層と高年層主婦の2グループに分けて多変量解析により検討した。

結果 多変量解析を行った結果、次のような特質が析出された。

- ① 世代間において考え方に差がみられるのは、領域別では食生活く衣生活く衣食を除く生活分野の順である。
- ② 世代間において明確な差が認められたのは“規範”であり、高年層はいずれの質問項目についても若年層に比べ考え方、行動ともに高かった。また考え方と行動とのズレも少ない。
- ③ 若年層は子供を中心にした家族集まっでの行動傾向がみられ、それは“安定”の価値が高く表われていることに代表される。
- ④ 高年層は“規範”の他に“満足”“能率”に高く表われ、経済的にも時間的にも若年層に比べて余裕があるとみられる。
- ⑤ 両世代ともに“満足”“教育・教養”“創造”“発展”など精神的充足につながる価値への評価が意識面では高いが、いずれも行動は伴っていない。